

Title	職務行動の効率化に関する考察 - 弾力的職務行動をめぐって -
Sub Title	
Author	和栗三雄(Waguri, Mitsuo) 石田英夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1985
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1985年度経営学 第450号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001985-0450

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 和 栗 三 雄 主査 石 田 英 夫
(藤沢薬品工業株式会社) 副査 奥 村 昭 博
所属ゼミナール 石 田 英 夫 研 高 木 晴 夫

職務行動の効率化に関する考察 —弾力的職務行動をめぐる—

日本の多くの企業においては、組織メンバーの職務内容や役割分担が比較的柔軟に設定され、組織運営が行なわれている。そして、その柔軟な職務設定のスタイルは、組織効率上の重要な機能を持つ事が考えられ、日本企業の成長に貢献して来たと言われている。

本論文は、より効率的な職務設定及び組織運営を実現させる要因の発見を目的としている。そして、この柔軟な職務設定の機能を発揮させる為に必要とされる組織メンバーの行動が、どの様な特性を持つかを明らかにし、彼らが実際にその行動を取るに当って、どの様な意識を持っているかを検討する。

研究に当っては、営業職を対象とし、彼らの意識構造を探る為の質問紙調査を実施した。さらに、その調査結果に基づき、より正確な情報を得る為に面接調査も実施した。

これらの調査から、柔軟な職務設定の機能を発揮させる為に必要とされる組織メンバーの行動には、少なからず精神的な疲労が伴う事が確認された。又、その様な行動を取る彼らを大きく動機づける要因は、地位や経済的な要因というよりも、上司の正当な理解や評価という極めて精神的な要因である事も確認された。

これらの結果から、組織メンバーの持つ貴重なエネルギーを効率的に配分し、組織の効率性を維持、発展させる為には、どの様な職務設定が行なわれるべきか、および組織管理者が行なうべき管理活動には、どの様な要件が必要とされるかについての提言を行なった。